



スペシャリストにきく

セカンドライフの家計

——仕事をリタイアした後、年金だけで暮らしているか気になります

わが国の年金制度では、原則として20歳以上60歳未満の全ての国民が国民年金に加入し、25年以上加入した人が65歳になると、老齢基礎年金として受給がスタートします。サラリーマンや公務員などは国民年金のほか、厚生年金や共済年金にも加入していて、老齢厚生年金、退職共済年金として受給できます。これらを公的年金と呼びます。さらに企業年金や個人的に生命保険会社の確定拠出型年金

などに加入している人もいます。いわば3階建て構造になっているわけです。

受給額については、平成16（2004）年に、夫が65歳時点で夫婦2人の基礎年金と夫の厚生年金をあわせて、そのときの現役世代の平均手取り収入の50%以上、という目標が出されましたが、現状として実現は難しい。それよりは大きな目安として、本人の60歳当時の給与の3分の1程

年金と貯金の取り崩しで賄えるか



社会保険労務士

とみた・たかし 塾講師を経て
社会保険労務士の資格を取得、平
成21年富田労務管理事務所を開
設。労務・年金問題など幅広く活
躍。特定社会保険労務士。

度とみておく方がいいでしょう。個人事業主やパートアルバイトで厚生年金に加入していない人はさらに少ない。この少なくなった収入でどう生活するか、を考へなくてはならないわけです。

——65歳以降の支出としてはどんなものが考えられるでしょうか

多いのは住宅費です。ローンが残っている人もいるでしょうし、賃貸住宅の場合には収入に占める割合が大きくなります。次が医療費

です。会社の組合健康保険、国民健康保険などに加入していて、一定以上の所得の世帯は3割負担ですが、病気によつては保険対象外となりますし、抗がん剤治療など長期間続く場合は、負担限度額が月8万円だったとしても年間では100万円近くなる。このほか、健康保険料や介護保険料といった必ず必要な経費もある。日常生活費も加えると、結局、年金と貯金の取り崩しで暮らしを維持していくことになります。このため事前に備えておくことが重要です。準備は早いほど手厚くできますが、60歳、65歳からでも遅くはありません。

セカンドライフへの備えはどんな考え方をしたらいいのでしょうか

私は、2つに分けて考えるようアドバイスしています。1つは「万一のリスク」。もう1つは「生きるリスク」です。前者は障害を負ったとき、事故などのケガ、認知症になる、死亡するといった場合です。後者は、普通の生活で必要な生活費はいくらかということ。年をとれば病院にかかる機会も増え、医療費は膨らむ。住宅の改修費なども必要でしょう。生活費をどこまで抑えながら快適な暮らしを維持できるかです。65歳から20年間生きるとして、年金収入と現在の貯金の取り崩しで賄えるかどうか

妻の場合、夫が死亡したら年金がいくらになるかにも気になりますね

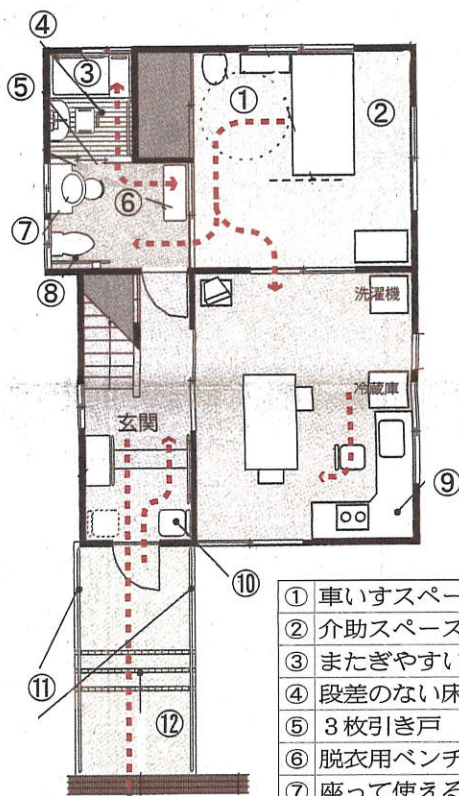
ご主人が亡くなると、年金は遺族年金に切り替わります。奥さんが65歳以上なら、遺族年金は自分の基礎年金とご主人の厚生年金部分の4分の3を加算した額です。ただし、遺族年金には所得税がかからないのでその分負担は軽くなります。65歳までならほかに中高齢寡婦加算もあります。

多くの人はセカンドライフについて不安を感じています。でも知識を得ることのでかかなりの部分は解消されます。知っていれば得をすることもある。年金については近くにある年金事務所が無料相談を行っています

わが家をバリアフ



＜バリアフリー改修例＞



- ① 車いすスペース
- ② 介助スペース
- ③ またぎやすい浴槽
- ④ 段差のない床
- ⑤ 3枚引き戸
- ⑥ 脱衣用ベンチ
- ⑦ 座って使える洗面台
- ⑧ 呼び出しブザー・手すり付きトイレ
- ⑨ 座って使えるキッチン
- ⑩ 玄関に靴脱ぎ用いす
- ⑪ 壁両側に手すり
- ⑫ ゆるい段差

(大阪の住まい活性化
フォーラムのパンフレ
ットを参考に作図)

「大阪の住まい活性化フォーラム」のパンフレットは家事、入浴、外出など日常動作のチェックリストを掲載している。

◇

気になるのはリフォームの費用だ。あれもこれも手直ししたいが、

され、融資は最大1000万円まで認められる。融資は月々利息のみ返済し、本人が亡くなったときに住宅処分などで一括返済する仕組み。自治体の支援策は自治体ごとにさまざまだ。さらにリフォームの際に省エネや耐震工事を行うとこれらの支援制度を併用することもできる。

一方、注意が必要なのは悪質業者を避けること。「快居の会」では「補助金制度などを紹介して、

70016・100)を開設
こちらよりフォームの方法、見積
もりのチェックから、工事に伴う
トラブルの相談までと幅広い。い
つまでも快適に暮らすためには、
専門家のサポートを賢く活用する
知恵が必要なのようだ。